

伊予市

じんけん教育

2010
No.

11

一人一人の人権が尊重される、明るい伊予市をめざして

編集・発行／愛媛県人権教育協議会伊予市支部 伊予市教育委員会（〒799-3113 伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155）



(ゆっくりと落ち着いて)

とりのき保育所では、「未発達な体力の見直し」をするために、各年齢に適した運動や遊びを取り入れています。全身をダイナミックに使って遊ぶ姿があまり見られません。この点を改善するために、いろいろな遊び方を提供する計画を立てました。

三歳児から五歳児の縦割りで六〜七人ずつのグループを作り、リーダーは年長児がしました。三歳児が、グループが分からなくて迷っていけば、年長児が手をつないで連れてきたり声をかけてくれたりします。一か月に三〜四回（一回三十分程度で、準備運動から動物に変身したり、じゃんけん汽車の集団遊びをしたりして楽しめます。繰り返す間に持久力・瞬発力・遊びのルールなどが身につくよ

みんなで元気なからだに！
子どもの遊びと食事の見直し！

とりのき保育所



(見て、こんなに小さいよ)

うにレベルアップしています。

昨年の運動会では、組体操に挑戦しました。笛の合図に合わせて次々と形を披露しました。激励の拍手を頂き、子どもたちの自信につながりました。手足の筋肉も強くなり、三歳児さんも頑張っていました。土台が安定していることの重要性を知り、自分の持ち場を守ります。お

互いの辛さが分かり最後まで頑張った。ええました。身体も頼もしくなりました。今年もまた挑戦します。

この体力づくりに欠かせないのが食育です。三年目になる伊予農業高校の生徒さんと交流した野菜の栽培も、少しずつ収穫量が増えました。今年は、「種をま



(二十日大根って赤いよ)

いて育てる「体験で、きゅうり・二十日大根・小松菜・人参・ピーマン・なす・かぼちゃ・トマトの世話をしました。ごまつぶ位の小さな種をやつと指で摘んでポットにまきました。発芽を見つけて「すごい！芽が出た」と、生命の神秘さに感動し、小さな芽に愛情をもったようでした。根気と忍耐力のいる雑草抜きや水やりも協力して作業しました。

収穫した野菜は、給食室でおいしく料理してもらったり、自分たちでクッキングをしたりして食べました。小さな人参も無駄にせず、スープの具になりました。スーパーで買ったミニトマトよりも、園で作った方が甘くておいしく、匂いもよいことを実感しました。そのことを忘れないで欲しいと願っています。このような体験をするうちに、野菜を嫌う子が減ってきました。

幼児期から自分の身体に関心を持ち、健康な身体と心をもち続けて成長して欲しいと願っています。

人権・同和教育への取組

伊予市立伊予中学校

本校は、南伊予の自然に囲まれた生徒数二百十八名の中規模校です。「敬愛・自主・自律を实践する生徒の育成」を学校の教育目標として掲げ、それを具現化するため、人権・同和教育を進めています。本校の生徒はあいさつがよくでき、明るく素直であり、楽しく学習に臨むことができます。しかし、小学校の時からほとんど同じメンバーで生活していることもあって、人間関係が慣れ合いになることも多く、不用意に人を傷つけてしまう場面があります。そこで、特に仲間意識を高める集団づくりに努めています。

人権標語の作成

毎年、生徒対象に人権標語の作成を実施しています。



(3年 障害者差別について考える)

作成した標語に対して自分の思いを述べるなどして、人権意識を高めています。なお、生徒作品は、校区内二十二会場で開催される地区別人権・同和教育懇談会で紹介しています。

人権・同和教育参観日の実施

昨年十一月に、人権問題を扱った授業公開を全学級で実施しました。この行事を通して、保護者や地域の方に学校での人権・同和教育を知ってもらうとともに、教材開発や指導案審議を通して、教職員が差別解消に向けての確固たる姿勢を確立する機会としています。昨年度は、一年生は「いじめ」、二年生は「在日韓国人に対する差別」、三年生は「障害者に対する差別」、特別支援学級では「親子の絆」をテーマに授業を行いました。保護者に授業の感想を書いていただくなどして、共に考える機会を設けるとともに授業改善に活用しています。



(3年 障害者差別について考える)

成果と課題

これらの取組をするなかで、生徒は仲間の大切さや生き方について考えるようになってきました。日々の道徳や他の授業を通して出てくる意見も、真剣に考えられたものが多くなってきました。次の課題は、学んだことを日常に生かす実践力の育成です。今後とも教職員がさらに研修を深め、共に学び、共に生きる人権・同和教育を実践していきたいと思えます。



(1年 いじめ問題について考える)

愛媛県人権教育協議会伊予市支部総会

2010(平成22)年6月2日(水) 伊予市市民会館



(総 会 風 景)

例年にも増して多くの皆さんの参加のもと、本年度の愛媛県人権教育協議会伊予市支部総会が開催されました。春田支部長のあいさつに続いて、中村市長はじめ来賓の方々からご祝辞をいただきました。

支部長あいさつ、来賓祝辞で、「人権の世紀と言われている今日ですが、毎日のように人権に関わる事柄がマスコミ等で報道され、また、インターネット上の差別書き込み、落書き等もあとを絶ちません。大変な人権侵害です。同和問題をはじめあらゆる人権問題の解決と人権文化の創造、人権が尊重される社会づくりが重要です。伊予市においては、『伊予市人権を尊重する社会づくり条例』を制定していますが、市民が人権を大切にする意識を

根付かせ、豊かな人権のまちにしなければなりません。」と、事例を折り込みながらのあいさつがありました。

開会行事の後、総会に移りました。支部活動の基本方針、事業計画、予算の審議を行い、質疑と意見交換後、出された議案はすべて満場一致で承認されました。その後、役員改選を行って終わりました。引き締まった総会でした。

ビデオ視聴
「みかんの薫る
ふるさとで」
人権啓発劇 旧下灘中学校制作

例年、支部総会後に講師を招いての記念講演を実施していましたが、今年度は趣向を変えてビデオ視聴を行いました。視聴したビデオは、伊予市立下灘中学校が昨年度制作した人権啓発劇「みかんの薫る ふるさとで」(平成二十一年度発表済み)です。下灘中学校は、平成二十一年度をもつて閉校し、本年の四月から上灘中学校と統合し伊予市立双海中学校として出発しました。

昨年度までの下灘中学校は、全校生徒と教師・地域が協力し、人権・同和問題学習の一環として毎年人権啓発劇の制作に取組み、学習参観日に保護者、地元の皆さん、関係機関の人を迎えて学習発表会を行ってきました。

この日視聴した人権劇の映画は、ふるさとをテーマに相手の立場や思いを尊重すること



(役になりきっての熱演 ビデオの一場面)

の大切さ、差別することの醜さと差別を受けた人の心の痛みや怒りを考えて脚本をねり、完成させました。

しっかりと制作意図のもと、地域の人々の思いや若者の考え方、ふるさとを思う気持ち等を表現し、ふるさとを舞台に部落差別を解消していく内容の濃い人権劇でした。中学生の差別解消への強い思い、また、地域の人々の思いも重なる伝わり、見る人の心をゆさぶる映画でした。

このような取組で完成させた内容の濃い人権劇を総会参加者に記録ビデオで紹介できたことは、意義深いものでした。参加者は映画の内容と中学生の真剣な熱演に感動し、充実した視聴となりました。

第五十七回

四国地区人権教育研究大会に参加して

二〇二〇(平成三十二年) 七月一日(木)・二日(金) 高松市

「四国はひとつ」の合言葉のもと、伝統のある四国

地区人権教育研究大会が、高松市で開催されました。開会行事の後、各分科会に分かれて、同和問題をはじめさまざまな人権問題の解決と人権文化構築に向けた実践並びにその研究成果の報告を聞きました。その後、質疑と熱心な討議を行いました。世の中から差別問題や人権侵害がなくなり、安心して暮らせる社会づくりのために、この研究大会で学んだことを生かしていきたい。そのために「学び続けることが、大事だ」と、自分の気持ちを引き締めました。

◆感想文紹介◆

「第五十七回 四国地区人権教育研究大会に参加して」

四国地区人権教育研究大会への参加は、高知県での大会に参加して以来の二度目であった。

一日目は、全体会での基調提案の後移動し、第四分科会「人権確立を目指す地域の教育力」に参加した。はじめに、徳島県石井町教育委員会から、「人権教育・啓発の取組」が報告された。マンネリ化に

よって停滞した大会を人権擁護委員会と連携して克服してきた報告であった。

一方、企業に対する取組が十分にできていないことなどが報告された。フロアからも積極

的な質問や意見が出され、「様々な人権への取組が単なるポーズにならないように注意しよう」と、確認した。また、別の参加者からの意見で、「様々な人権が強調されていく一方で、同和問題の取組が後退するのではないかと、危惧するという意見も出された。

二日目も同じ分科会に参加した。終盤に全体を通しての意見が出された。その時フロアから、出席している参加者に呼びかけた言葉が心に残った。「差別して何かいいことがありましたか?」「差別、やめませんか?」

差別を受け、苦しい思いをした人の心の叫びを聞いた気がした。一方、穏やかでしっかりとした口調で、「私たちは、地域の行事には、地区に関係なく一緒に参加して、楽しく活動しています」と、発言された。今大会に参加して、二人の発言は特に印象に残った。同時に、人権・同和問題解決への活動は、地道に続けて行くことが大切だと思った。



(開会行事 全体会風景)



(企画行事 拓心太鼓の演奏風景)



(分科会の様子)



(懇談会風景)

上野地区は地域が自主的に人権・同和教育を推進していくという意識が高く、懇談会の案内も区長さん、総代さんを中心に役員さん方のご協力と地域諸団体の協力です。子どもを含めた家族参加者が増加しており、成果を上げています。これからも研修内容を工夫し、参加者が充実感の持てる懇談会を企画するとともに、更に、関係機関と住民が一体となった人権・同和教育の推進に取り組みたいと思っています。

続いて人権啓発ビデオの視聴ですが、今年は「いのち輝くとき」を鑑賞しました。子どもの虐待防止、地域コミュニティの大切さが中心テーマの人権啓発ドラマで学ぶことが多いものです。改めて地域の交流の大切さを認識させられました。講話では、学校の教師や社会教育指導員が講師となり、映画のポイントや人権に関わる事柄を話してまとめます。

この懇談会は、毎年八月から十月中旬の間にすべての小字二十三箇所二十二年会場へ出向き、実施しています。内容は、伊予小・中学校児童・生徒の人権ポスター・標語の紹介、ビデオ視聴、講話及び意見交換です。人権ポスター、標語は作者の製作に込めた思いを紹介し、参加された皆さんは近所の子どもの作品を身近に触れて大変好評です。

上野地区では一人ひとりがお互いを認め合い、人権を尊重する明るい社会づくりを進めていくため、「上野地区人権・同和教育推進委員会」が中心になって「地区別人権・同和教育懇談会」を開催しています。

平成22年度

地区別人権・同和教育懇談会

あらゆる差別をなくす人権・同和教育の推進

上野地区公民館

第12期 オピニオンリーダー養成講座

講座の様子・参加者の感想

伊予市では、市民の人権が尊重されるよう『伊予市人権を尊重する社会づくり条例』を制定しています。同和問題をはじめ、さまざまな人権に関する諸問題を解決するために、地域に根ざした啓発活動を展開していく推進者づくりを目指して、この講座を実施しました。50名が参加して、6月3日から7月8日までに5回開きました。講座は、5名の講師団が担当し、講義や参加体験型のワークショップ等、幅広い学習をしました。受講者が目標を持って参加した自主的な研修会で、内容の充実した講座になりました。

「差別をする人がいるから差別がなくならない」という当たり前のことを改めて考え直しました。親から子へといういろいろなことを教えられ、自分たちもしなければならぬという意識だったと思います。気にしていなかったのですが、講座を受講してからは、親から言われても自分で考えてみて実行しなければならぬと思いました。自分も今は親の立場なので、子どもには正しい指導をしようと思っています。

「真相は知らない。昔からの習慣」というところから、部落差別意識が心の中に入り込んで、根強く残っているのではないのでしょうか。正しい知識・認識を持ち、自分が行動を起こさないと何も変わらないと思います。差別の克服をした事例を読み、作り上げられた悪しき慣習をなくしていきたいと思います。



(資料を提示しながらの講義)

人権の歴史について 人権問題、過去・現在・未来。(人権教育十の反省)の講話を聴き、人権問題の重要性を改めて考えました。偏見や差別がなくならないのか、自問自答してみました。自己の勉強不足も含めて、今後、もっと人権について学びたいと思いました。五回すべて参加して学べたことは、自分にとって意義深いものでした。

講座を受けるに当たって、同和問題について家族で話し合いました。成人式を既に終えている息子、娘に考えを聞きました。子どもは、学校時代に同和問題や差別についての学習をしています。自分が話す事について、そのことは部落差別を意識していることにつながらないかと言われました。本日の研修で、先祖からの申し送りのように教えられ、意識の中に根付いたように思いました。後へ引き継がないことが大事だと感じました。



(ワークショップで班員の意見を真剣に聴いている受講者)

ワークショップ ちがいのちがい

自分たちの生活の中で、次のような場合、どう考えますか？

○ あってよい
△ どちらともいえない
× あってはいけない

男子に比べて女子の方が家事を手伝うようによく言われる。



あなたはどのように考えますか。

家事手伝いについて、どのように考えますか。家庭内では、家事手伝いは「男女に関係なく同じにさせる。あるいは女の子に期待する」等いろいろな考え方があるでしょう…。話題にしてみませんか。

あなたはどのように考えますか。



校内マラソン大会で、男子は6Km、女子は4Km走る。

男子と女子で走る距離が違います。そのことについて、いろいろな考え方ができると思いますが…。話題にしてみませんか。

第12回「人権を考える市民の集い」の開催

●◆●◆ 多くの人のご参加をお待ちしています ◆●◆●

◆ と き：平成22年11月3日(水) 9:30～12:00
受付 9:00～

◆ ところ：伊予市市民会館大ホール (入場無料)

◆ 記念講演

演 題 わたしが変わる わたしが変わる
～身近な人との出会いや関係を通じて～

講 師 くま もと り さ
熊 本 理 抄 さん
(近畿大学人権問題研究所)



〈プロフィール〉

◆ 経 歴 福岡県生まれ。
大学在学中にカナダへ留学した際の先住民族との出会いをきっかけに卒業後、反差別国際運動日本委員会事務局に専従職員としてかわる。
2002年4月から、近畿大学人権問題研究所に所属。
現在は、社会福祉や社会開発の視点から、部落女性のエンパワメントのあり方を研究したマイノリティ(被差別少数者)の女性たちと、複合差別の視点にたったネットワークづくりに取り組んでいる。